みんなでできる地球温暖化防止活動

―消費生活アドバイザーとして、推進員活動をしております!!―

福島県地球温暖化防止活動推進センター
事務局長　鈴木和隆
（特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク）

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

■消費生活アドバイザー

福島県地球温暖化防止活動推進員の遠藤みよ子さんは、消費生活アドバイザーの仕事をしています。「いろいろな契約トラブルについての相談を受け、助言や斡旋を行います。ネット社会になり契約の形態が複雑化し、消費者のリテラシーが追い付いていません。」

消費は地球温暖化の問題とも深くつながっているといいます。「SDGsの12番目のゴールは、つくる責任、つかう責任ですが、つかう責任とはエシカル消費のことです。商品を購入する時に、地球環境に悪い影響を与えるものを、できる限り選ばないことです。」

■推進員になったきっかけ

「環境ジャーナリストの枝廣淳子さんの『朝2時起きで何でもできる』という本を読みました。彼女が翻訳した本も読み、環境問題に興味を持ちました。」

遠藤さんは、東京商工会議所が主催している環境社会検定試験（通称eco検定）に合格し、そんな時に知人の推進員に薦められて養成研修会に参加し、2008年に推進員になりました。遠藤さんは、食生活アドバイザーや調理師の資格なども持っています。

■フードマイレージ、環境マーク

「フードマイレージをご存じですか。食料が生産地から消費者に届くまでの距離と重量を掛け合わせた指標で、食料輸入が地球環境に与える負荷が把握できます。」遠藤さんは、消費生活アドバイザー協会の会員向けにフードマイレージの講座を開催したそうです。

「環境マークに気を付けることも、消費者として大切です。エコマーク、FSC（森林管理協議会）マーク、MSC認証ラベル（海のエコラベル）が貼ってある商品を選ぶようにしています。他にもたくさんの種類のマークがあります。」

■みんなでできる地球温暖化防止活動

「3Rとか5Rとか言いますが、私の優先順位は、できるだけごみを出さないリフューズ（Refuse）です。不要な包装など、ごみになりそうなものを購入しないことです。」一人一人の消費行動が賢くなれば、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会が変わります。

（Web）http://fukushima-ondankaboushi.org/